

推進本部円卓会議コメント

実施方針

- SDG の背景には危機感。世界が持続可能でない方向にあり、このままでは持たない。これを再認識する必要がある。
 - Transformation を行う覚悟が必要。
- SDG は対外、国内両政策がある。国内も極めて重要。「ロールモデル」を真に目指すべく行動すべき。
- **【優先課題】 2本柱を立てるべき。** 既存政策の紐づけは重要。だが、SDG は統合実施が最重要。色々な目標・ターゲットが相互関連している。政策を横断的に統合し、矛盾のないように目標を達成するための仕組み（体制）を作るべき。その際には、日本の優先課題をSDGに紐づけることが重要。課題をグローバルかつ長期（2030）のスケールで考えるツールがSDG。「処方箋」は一つの試み。

【体制】

- 司令塔はトップダウンではなく、サッカーの司令塔的なイメージを。
- 仕組みには、
 - 実施のための調整機能
 - 統合実施をする具体的政策手段（含財政措置）
 - 評価
 を入れるべき
- 目標の連関や相互関係の検討は学界の役割でもある。Synergies and trade-offs。
- 予算をつける必要性。統合実施のインセンティブとなるようなスキーム（官・民、地方自治体を含め）、広報など。特に民へのインセンティブ付け効果的。
- 目標達成へのロードマップ策定が必要。
- ステークホルダーによる実施は国連文書でもかぎの一つ。こうした仕組みを設置・継続していただきたい。
- HLPF で発表すべきは歓迎。GSDR ドラフト策定委員会に日本からも入るようにしていただきたい。
- SDG の目の設定を。

【フォローアップ・レビュー】

- 最初は2019年に。UNGA でも発表あるいはサイドイベントを。